

「さざ波」/秋田県にかほ市象潟町/560×457mm/写真・印刷紙/2020年



「冬ぞれ」/秋田県にかほ市象潟町/560×457mm/写真・印刷紙/2021年



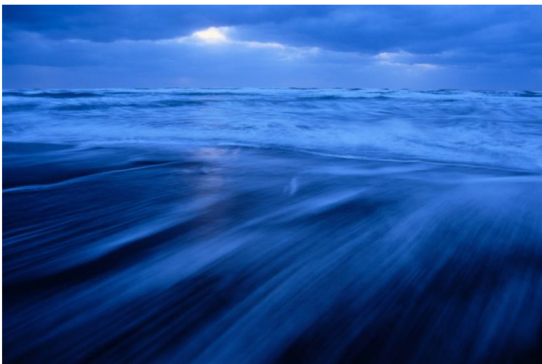
「涌波ブロック」/秋田県にかほ市象潟町/560×457mm/写真・印刷紙/2019年

「N.E.blood 21」は精力的に制作、発表活動を行う東北・北海道在住若手作家を紹介するシリーズ企画です。美術館とアーティストとの新しい関係を模索しつつ、作家同士のネットワーク形成を念頭に置き複数の作家の個展を開催しています。通算第80回目となる本展では、秋田県にかほ市在住の作家齋藤大悟(さいとう・だいご)を紹介します。

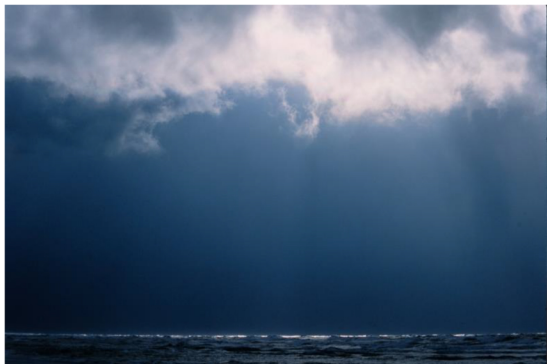
齋藤は1977年秋田県由利郡象潟町(現にかほ市)生まれ。2002年から本格的に写真をはじめ、現在ライフワークとして地元である象潟の海辺を中心に撮影し続け、個展・グループ展等において写真作品を発表しています。

日本海の色は太平洋と比較して色が濃いことから「鉛色」あるいは「鈍色(にびいろ)」の海と表現されることがあります。特に冬場の自然環境や天候などから一般に暗く重い印象のある日本海ですが、齋藤の写真には荘重な海の多様な姿が捉えられており、その様の深さを感じさせます。長年にわたり日常的に海を見つめてきた齋藤は、季節や時間帯、天候などで海が多彩な表情を見せることはもちろんのこと、その時々自身の心情によっても写真が変化することを知っています。

私たちは齋藤の写真を通じ、秋田にかほの海の多様な姿を知ると同時に齋藤が海とともに過ごしてきた時間そのものに触れる機会となるでしょう。



「流れ」/秋田県にかほ市象潟町/600×900mm/写真・印刷紙/2012年



「光明」/山形県飽海郡遊佐町/300×450mm/写真・印刷紙/2014年

齋藤大悟略年譜

- 1977年 秋田県由利郡象潟町(現にかほ市)生まれ
- 1996年 高校卒業後、秋田県内の企業に就職
- 2002年 長女誕生を機に写真を始める。主に家族のスナップ写真を撮っていたが、次第に日常の身近な景色にもレンズを向けるようになる。特に、自宅からほど近い海辺の景色に惹かれ、日々撮影を続けている。
- 2013年 個展「海辺にゆるる軌跡」富士フィルムフォトサロン仙台(宮城)
- 2015年 個展「海辺の輪郭」フジフィルムスクエア(東京)
- 富士フィルムフォトサロン仙台(宮城)
- グループ展「あきたの美術2015」秋田県立美術館(秋田)
- 2019年 個展「たゆたい：対話」アトリオン(秋田)
- 2022年 グループ展「アーツアーツ2022展」アトリオン(秋田)

N.E.blood 21 Vol.80 SAITO DAIGO EXHIBITION

2023.2.11 SAT ▶ 3.19 SUN



リアス・アーク美術館
ホームページQRコード

リアス・アーク美術館利用案内 ●常設展①美術作品展 ②歴史民俗資料展＝方舟日記一海と山を生きるリアスな暮らし ③東日本大震災の記録と津波の災害史展【常設展観覧料】一般：700(600)円/大学・専門学校生：600(500)円/高校生：500(400)円/小・中学生：350(250)円 ※(内訳は20名以上の団体料金) ●ワークショップ＝土・日を中心に開催するアートリエ ●レストラン「キャッチス」＝地元食材中心の創作料理をご提供。日替りランチ、シーフード系パスタ・カレー・ラーメンが人気です。

- 三陸自動車道【気仙沼中央IC】から約5km(仙台市から約115km/石巻市から約70km/陸前高田市から約25km)
- 東北自動車道【一関IC】から約50km ◆無料駐車場あり(普通37台・大型5台)
- 東北新幹線【一関】—(大船渡線)—【気仙沼】—【東北新幹線】(仙台)—(気仙沼線)—【気仙沼】 ▶気仙沼駅からタクシー(約15分)をご利用ください。 ※「タクシー割引券」と「常設展観覧券引換券」のセットクーポン券が気仙沼駅前観光案内所、(一社)気仙沼市観光協会(電話:0226-22-4560)で販売中。 ※現在、気仙沼線【前谷地～気仙沼間、大船渡線【盛～気仙沼間】はBRT運行。



同時開催

N.E.blood 21

vol.81

伏見恵理子展

絵画/宮城県

<観覧無料>